# 「バリアフリーフェスタかながわ2019」の総括

## １　概要

(1) 日時

令和元年11月２日（土）　11：30～17：00

(2) 場所

横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、

新都市ホールホワイエ（横浜市西区高島2-18-1）

 (3) 主催

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

構成：学識経験者(4)、障がい者団体(7)、関係団体(3)、事業者(8)、公募委員(2) 計24名

(4) 内容

　ア　テーマ「やってみよう！あんなことやこんなこと　～ともに生きる社会に向けて～」

イ　県民会議構成団体を含む20団体が16コーナーを企画し、運営

ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーの実施

〔スタンプラリーの達成条件〕

エ　コーナー３か所以上のスタンプをスタンプラリー台紙に集める。

オ　上記に加えて、アンケートへの回答を景品引換の達成条件とする。

カ　同日、県主催の介護フェアinかながわが開催され、スタンプラリーの周るコーナーと設定するなど相互の乗り入れを図った。

 (5) 参加者数　※〔　〕は昨年の数字

ア　コーナー参加者数　1,449名〔1,201名〕（各団体でカウントした参加者の合計人数）

イ　スタンプラリー達成者数　 262名〔 221名〕

## ２　アンケート結果・分析

(1) 来場者向けアンケート

　　　来場者へのアンケート結果は別添のとおり。来年度に向けた分析は下記。

　　ア　昨年度に引き続き介護フェアと同時開催であったこともあり、40代以上の来場者が大半を占めている。

　　イ　来場のきっかけとしては、「家族、友人、知人」が昨年に比べて増えていたが、昨年度に引き続き「新聞」が最も多く、「その他」を選択した方の中でも県のたより等の広報誌の記載が複数あった。

(2) 実行委員会向けアンケート

　　　実行委員へのアンケート結果は別添のとおり。その中から主な意見の分類分けを行い、課題を抽出した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 分類 | 内容 |
| １ | 目的・考え方 | ・　オリパラの終わりと共にバリアフリーに対する世間の関心は低下すると思われる。その中で来年度のフェスタは、オリパラのレガシーを社会に根付かせるための一歩です。オリパラが終わったから規模縮小などと考えず、広報を強化することで、多くの人に参加して欲しい。・　デパートという場所柄、通りがかりの人、内容に興味は無く景品が目当てで来る人等、様々なタイプの人が来場し、それはそれでいいのではないかと思った。・　視覚障がい者への声掛け、誘導体験や、手話講習会、車椅子乗車体験等、実際に体験するコーナーを通じて、当事者の困難と、周囲が出来る配慮が伝わるのではないかと思う。 |
| ２ | 開催日時 | ・　開催時間が長く感じた。 |
| ３ | 開催場所 | ・　買い物や食事に来た方が「バリアフリーフェスタ」の開催を知って参加してくださることもあり、集客力に繋がっていると思う。来年度もそごう9階で続けてほしい。・　集客、スタッフの参加のしやすさ等、立地的には申し分ないが、各出展団体がひしめきあっており、狭く感じた。・　建物自体は駅から近くて外を歩くこともなく行くことが出来て便利だが、９階まで行く必要があるため、通りがかった人の参加は少ない様に感じた。・　開催場所や時期を定めることで、広く周知され、出展団体にとっても出展の要領がつかみやすいので良いのではないかと思った。・　そごう内の店舗と連携出来てよかった。 |
| ４ | 集客・周知 | ・　スタンプラリーの達成条件となる最低限のコーナーしか回っていない人が多くいた様に感じた。・　周知の段階で関係団体と連携を取り、より周知を強化したい。・　多くの方が関心をもって来場していただけるように、ポスター等の掲示場所や広報誌への掲載など、さらに周知のための工夫が必要ではないか。・　イベントの立て看板がセンタープラザ奥にあり、役立っていなかった。当日移動したが、次回は看板の位置への配慮が必要だと思う。 |
| ５ | 事前準備 | ・　他のイベントと同時開催していたが、別々のイベントというように感じられたので、打合せの段階から一緒に連携が必要だと思った。 |
| ６ | 運営体制 | ・　バリアフリーフェスタ内での連携（株式会社ファンケルと株式会社アデランスの連携企画や、その他コーナー内の企画での協力等）が取れてよかった。・　コーナーがひしめき合って、通路や一部コーナーのスペースが狭く感じた一方で、アンケート記入コーナーが広く感じた。・　介護フェアでの基調講演の間等はお客様の動きがなく、ブースがさみしい状態だったので、その時間をどうするか考える必要があると思う。・　ピンクシャツを着用することで、バリアフリーフェスタ全体の一体感が出てよかった。 |
| ７ | 同時開催 | ・　同時開催によって集客力が得られた。・　お互いの企画で、相乗効果が期待できるのであれば、同時開催に賛成であるが、お互いのイベント枠にとらわれることなく、相互に乗り入れた企画や相互のイベント内容の共有など、さらなる連携が必要だと感じた。・　親子連れが多く訪れるイベント会場や子ども向けのイベントとの抱き合わせにしてはどうか。・　スタンプラリーを通じて、両方のイベントに参加している方が複数見受けられた。・　複数での同時開催はお客様が流れて来ることや、新聞広告、電車の中吊り広告を出すことができ、多くの人の目に触れるので良いと思った。・　単独開催が望ましいが、現時点で単独開催することは集客面で難しいので、集客力ある催しとの同時開催は仕方ないと思う。・　２年間介護フェアと同時開催したが、学生や子どもが集まるイベントと同時開催してはどうか。 |
| ８ | 良かった企画や工夫 | ・　声掛けサポート体験や、誘導体験、手話講習会、車椅子乗車体験、ボッチャ体験等、実際に体験するコーナーの人気があり、良かった。・　体験型のコーナーは参加者に楽しんでもらえ、参加者自身が感じることが増え、思いが高まるように感じた。 |
| ９ | その他 | ・　知事に体験してもらうことで、アピールできて良かった。・　今後も継続して欲しい。 |

## ３　対応策

(1) 目的・考え方

　　引き続き、商業施設等で開催することで、普段、バリアフリーになじみの薄い方等にも参加してもらえるように、当日の周知等を工夫する。

　　また、体験型のコーナーが昨年に比べて増え、当事者の困難や、周囲が出来る配慮について、伝えることが出来ると同時に、来場者にも人気であったことから、体験型の企画を継続したい。

(2) 開催日時・場所

　横浜新都市ビル９階センタープラザは商業施設の中にあり、横浜駅からアクセスがよく、様々な人が訪れることが期待できる。また、県主催の介護フェアも同日同会場で開催予定のため、連携することで集客が期待できる。

 (3) 集客・周知

　　スタンプラリーの達成条件となる最低限のコーナーしか回っていない人が多くいたとのご意見があり、抽選回数を増やす等のさらなるメリットを作ることによって、来場者により多くのコーナーを周遊してもらえるように努める。

　　また、今年度は「家族、友人、知人」がきっかけとなり、参加された方が増えていたため、県民会議構成団体をはじめとしたフェスタ関係団体間で連携を取り、より周知を強化する。

(4) 事前準備

同時開催イベントとの情報共有や連携不足について意見があった。バリアフリーフェスタ実行委員会での検討段階から、同時開催イベントの担当者に参加してもらう等して情報共有を進めるとともに、その中で連携方法について検討する。

(5) 運営体制

同時開催イベントで基調講演等のメインステージが行われている際の集客について、検討する。

(6) 同時開催

　　当日の集客や事前広報の強化が可能になっていることから、同時開催に好意的な意見が多くあったが、イベント内容の共有や同時開催イベントとのさらなる連携を検討する。

（7）良かった企画や工夫

良かった企画や工夫として、体験型の企画が多く挙がった。来場者からのアンケートにおいても、体験に関する感想が多くあったので、体験型のコーナー参加を通じ、バリアフリーの街づくりへの理解を深めて頂き、周囲で出来る配慮について身につけてもらえるよう引き続き努める。